

三菱電機 ビル空調
マルチエアコン
アクティブフィルタ取付部品

形名

PAC-KJ56FAC1

取付説明書 (販売店・工事店様用)

もくじ	ページ
安全のために必ず守ること	2
1. 使用部品	6
1-1. 適用機種	6
1-2. 同梱部品	6
1-3. アクティブフィルタ本体側構成	7
1-4. 製品運搬と開梱時のお願い	9
2. 使用箇所 (取付作業の概要)	10
2-1. アクティブフィルタの取付位置	10
3. 取付け場所の選定	11
4. 取付け・電気工事	12
4-1. 準備	13
4-2. ねじ締め時のお願い事項	13
4-3. 取付け・配線方法	14
4-3-1. コネクタ接続について	22
4-3-2. 設定について	22
4-3-3. 電気配線図	23
5. 取付作業後の確認	24
5-1. 取付作業のチェックリスト	24
6. 試運転	25
7. お客様への説明	26

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい取付作業が必要です。取付作業の前に、この説明書を必ずお読みください。

- 「取付説明書」は大切に保管してください。
- お客様ご自身では、取付けないでください。(安全や機能の確保ができません。)
- この製品は、日本国内用に設計されていますので、国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country. No servicing is available outside of Japan.

アクティブフィルタとしては、本取付部品 PAC-KJ56FAC1 以外に、アクティブフィルタ本体である PAC-KJ50AAC1 が必要です。

本取付部品の適用機種については、本書内の「1-1. 適用機種」の項を参照してください。

安全のために必ず守ること

- ◆この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取り付けてください。
- ◆ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。



警告

取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うおそれのあるもの



注意

取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負う、または物的損害が発生するおそれのあるもの

- ◆図記号の意味は次のとおりです。



(一般禁止)



(接触禁止)



(水ぬれ禁止)



(ぬれ手禁止)



(一般指示)



(アース線を必ず接続せよ)

- ◆お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- ◆お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。



警告

電気配線工事は「第一種電気工事士」の資格を保有する者が行うこと。

一般事項



警告

以下の特殊な環境では使用しないこと。

- ◆油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところ
- ◆酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところ



使用禁止

- ◆性能低下・腐食による感電・故障・発煙・火災のおそれあり。

改造はしないこと。

- ◆けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

安全装置・保護装置の改造や設定変更をしないこと。

- ◆保護装置を改造して運転を行った場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。
- ◆設定を変更して使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。
- ◆当社指定品以外のものを使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。



変更禁止

取付作業・点検・修理をする周囲に子どもを近づけないこと。

- ◆工具などが落下すると、けがのおそれあり。



禁止

隙間・穴に金属類を入れないこと。

- ◆感電・火災のおそれあり。



禁止

ヒューズ交換時は、針金・銅線を使用しないこと。指定容量のヒューズを使用すること。

- ◆ 発火・火災のおそれあり。



禁止

運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触れないこと。

- ◆ 火傷・感電のおそれあり。



接触禁止

電気部品に水をかけないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチを操作したりしないこと。

- ◆ 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

ユニットのカバーを取り付けること。

- ◆ ほこり・水が入ると、感電・発煙・火災のおそれあり。



指示を
実行

ユニットを病院など医療機関に据付ける場合はノイズ対策を行うこと。

- ◆ ノイズが医療機器に悪影響を与え、医療行為を妨げるおそれあり。



指示を
実行

注意

ユニットのカバーを外したまま運転しないこと。

- ◆ 回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。



使用禁止

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



接触禁止

保護具を身に付けて操作すること。

- ◆ 各基板の端子には電圧がかかっている。触れると感電のおそれあり。
- ◆ 主電源を切っても数分間は充電された電気が残っている。触れると感電のおそれあり。



指示を
実行

電気部品を触る場合は、保護具を身に付けること。

- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。
- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。



指示を
実行

作業する場合は保護具を身に付けること。

- ◆ けがのおそれあり。



指示を
実行

運搬・据付工事をするときに

注意

20kg 以上の製品の運搬は、1 人でしないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



禁止

取付作業をするときに

警告

製品を可燃物に取り付けないこと。

- ◆ 引火・火災のおそれあり。



禁止

梱包材は破棄すること。

- ◆ 窒息事故のおそれあり。



指示を
実行

取付作業は、販売店または専門の工
店が実施すること。

- ◆ 間違った取り付けは、事故のおそれあり。
- ◆ お客様ご自身での取り付けは、事故のおそれあり。



指示を
実行

強風・地震に備え、取付作業を行うこ
と。

- ◆ 不備がある場合、部品が落下し、けがのおそれあり。



指示を
実行

電気工事をするときに

警告

電源配線は信号端子台に接続しないこ
と。

- ◆ 機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。



接続禁止

配線が冷媒配管・部品端面に触れない
こと。

- ◆ 配線が接触した場合、漏電・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



禁止

配線に外力や張力が伝わらないように
すること。

- ◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

端子接続部に配線の外力や張力が伝わ
らないように固定すること。

- ◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

配線の接続はねじの緩みのないように
確実にすること。

- ◆ ねじ緩み・接触不良により発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

電気工事をする前に、主電源を切るこ
と。

- ◆ けが・感電のおそれあり。



指示を
実行

電気工事は、第一種電気工事士の資格
所持者が以下に従って行うこと。

- ◆ 電気設備に関する技術基準
- ◆ 内線規程
- ◆ 取付説明書



指示を
実行

- ◆ 施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

電気配線には所定の配線を用い専用回
路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

電源には漏電遮断器を取り付けること。

- ◆ 漏電遮断器はユニット1台につき1個設置すること。
- ◆ 取り付けない場合、感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

以下の正しい容量の遮断器を使用すること。

- ◆ 漏電遮断器
- ◆ ヒューズ（開閉器＋B種ヒューズ）
- ◆ 配線用遮断器

◆ 大きな容量の遮断器を使用した場合、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

工事完了後、絶縁抵抗を測定し1MΩ以上あることを確認すること。

- ◆ 故障・漏電・火災のおそれあり。



指示を
実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- ◆ 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

D種接地（アース）工事は第一種電気工事士の資格のある電気工事業者が行うこと。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。

- ◆ 感電・ノイズによる誤動作・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。



アース
接続

移設・修理をするときに

警告

分解・改造はしないこと。移設・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

- ◆ けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

基板に手・工具で触れたり、ほこりを付着させたりしないこと。

- ◆ ショート・感電・故障・火災のおそれあり。



接触禁止

雨天の場合、サービスはしないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ
禁止

修理をした場合、部品を元通り取り付けること。

- ◆ 不備がある場合、けが・感電・火災のおそれあり。



指示を
実行

1. 使用部品

1-1. 適用機種

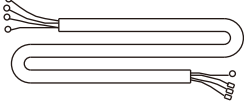
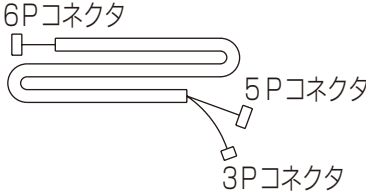
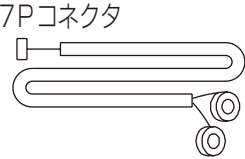
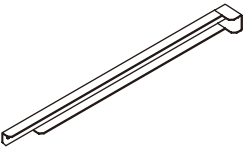
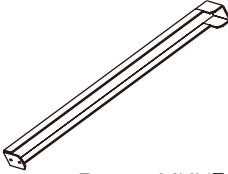
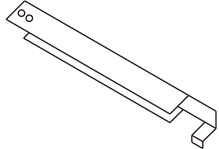



本取付部品は、アクティブフィルタ本体PAC-KJ50AAC1 を下記の室外ユニットに組込む際に使用します。



取付部品形名	適用室外ユニット (R410A シリーズ)
PAC-KJ56FAC1	P280M形、RP280M形、P280LM形、RP280LM形、P280MKH形
	P335M形
	P355M形、P355MKH形
	P400M形
	P450M形、P450KM形、P450MKH形
	P500M形、P500SM形
	P560M形、P560SM形、P560MKH形
	P630M形、P630SM形
	P674M形、P670SM形
P730M形、P730KM形、P730SM形	

※ 適用室外ユニット形名詳細については、本書巻末のお客様相談窓口にお問い合わせください。

1-2. 同梱部品

本取付部品は以下の部品で構成されています。作業前に確認してください。

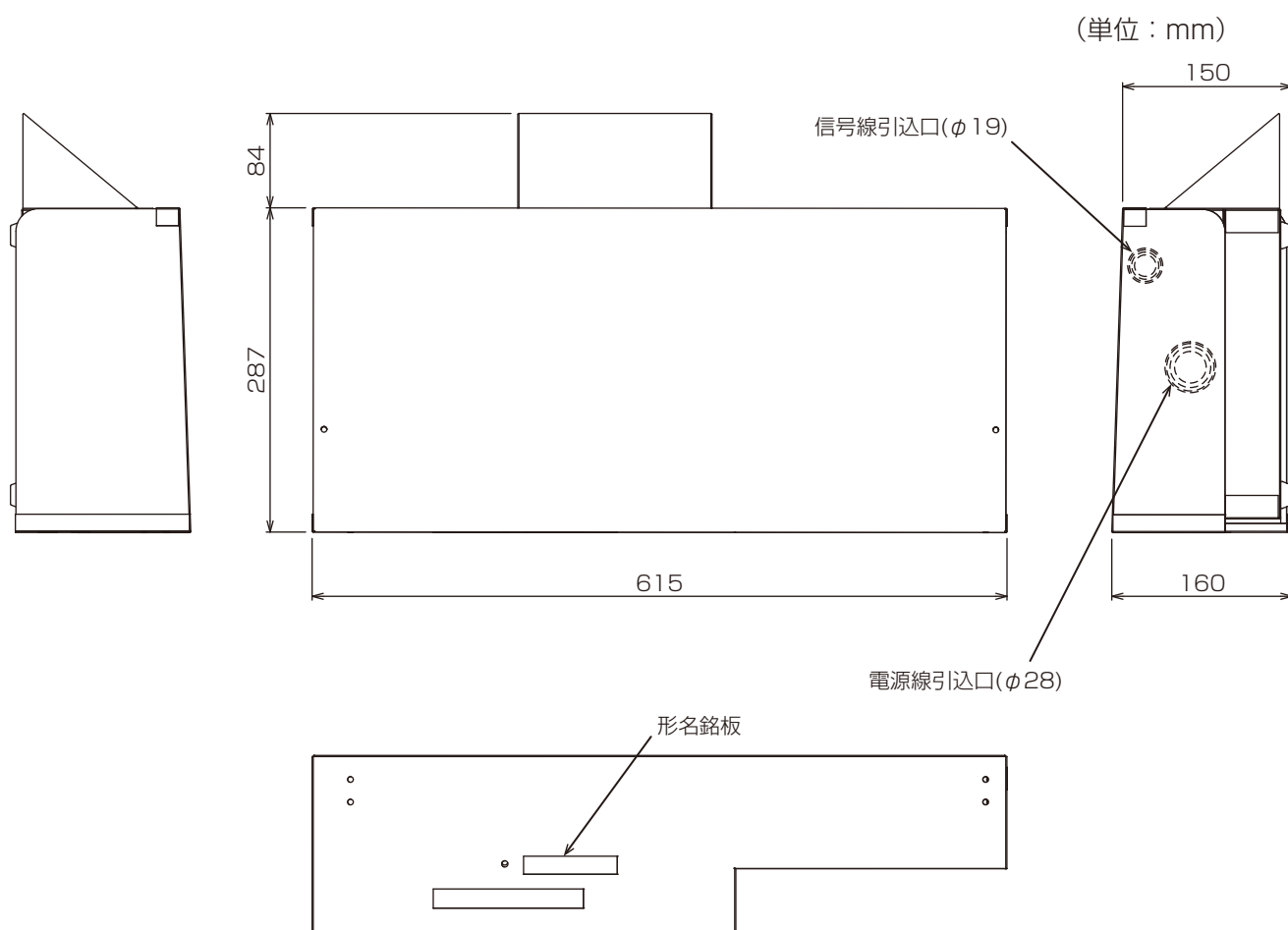
No.	D-1	D-2	D-3
名称	AF 電源配線 ※1	中継信号配線	ACCT 配線
形状			
個数	2	1	1
No.	D-4		D-5
名称	支え金具 A		支え金具 B
形状		 P***MKH形専用部品	
個数	1	1	1
No.	D-6	D-7	D-8
名称	本体固定金具	取付ねじ 1 (タッピンねじ)	取付ねじ 2 (タップタイトねじ)
形状			
個数	1	4	2

No.	D-9	D-10
名称	ワイヤストラップ	電気配線図銘板
形状		
個数	5	1

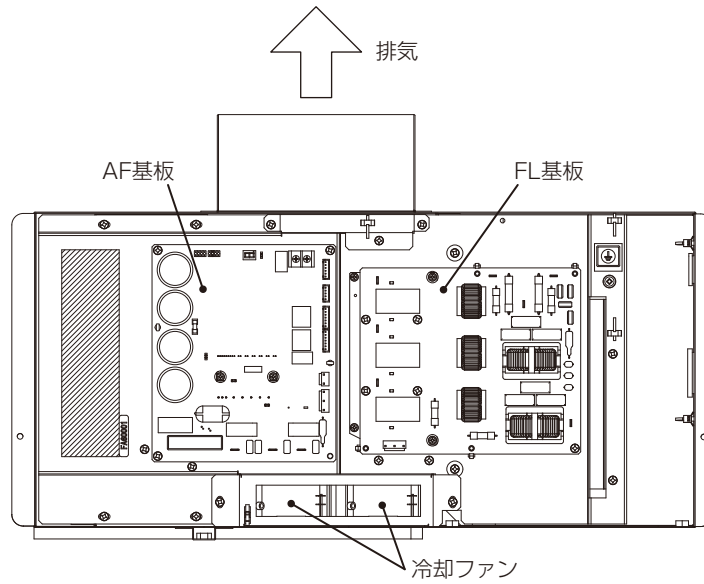
※1 AF電源配線は、機種により取付ける配線が異なりますので、適用室外ユニットを確認のうえ取付けてください。

1-3. アクティブフィルタ本体側構成

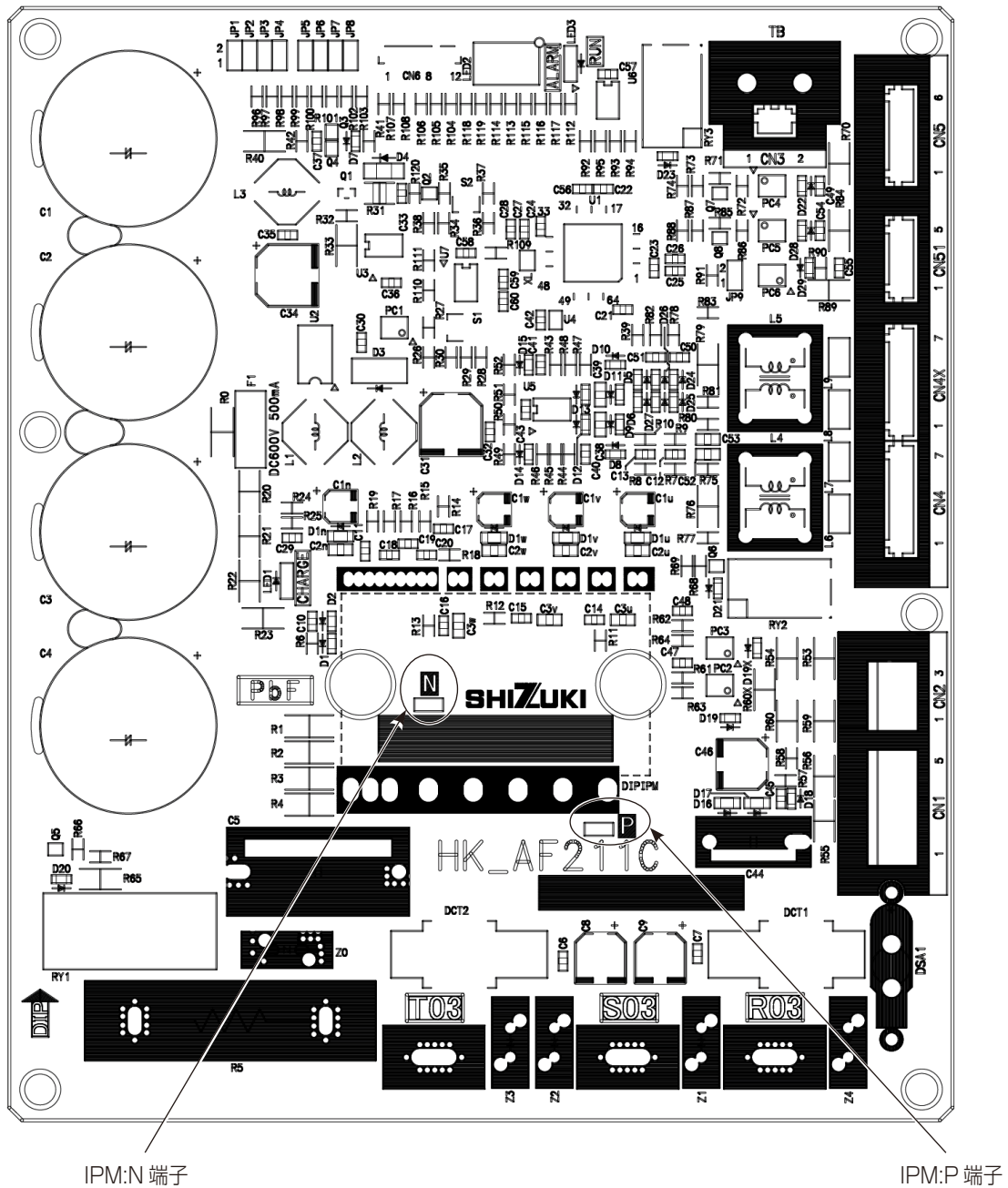
[1] 外形図 (PAC-KJ50AAC1)



[2] 内部構成図

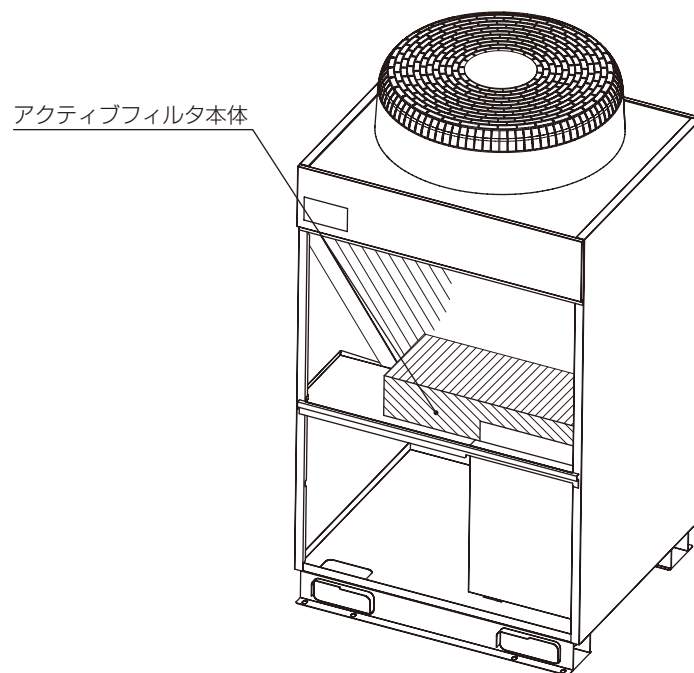


[3] AF基板



2. 使用箇所 (取付作業の概要)

2-1. アクティブフィルタの取付位置



3. 取付け場所の選定

本取付部品にて、アクティブフィルタ本体 (PAC-KJ50AAC1) を適用している室外ユニット内に取り付けてください。

4. 取付け・電気工事

取付作業全般に対して守っていただきたいこと。

⚠ 注意

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



接触禁止

20kg以上の製品の運搬は、1人でしないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



禁止

電気工事全般に対して守っていただきたいこと。

⚠ 警告

電源配線は信号端子台に接続しないこと。

- ◆ 機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。



接続禁止

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

配線の接続はねじの緩みのないように確実に行うこと。

- ◆ ねじ緩み・接触不良により発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

電気工事をする前に、主電源を切ること。

- ◆ けが・感電のおそれあり。



指示を
実行

電気工事は、第一種電気工事士の資格所持者が以下に従って行うこと。

- ◆ 電気設備に関する技術基準
- ◆ 内線規程
- ◆ 取付説明書



指示を
実行

- ◆ 施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

工事完了後、絶縁抵抗を測定し1MΩ以上あることを確認すること。

- ◆ 故障・漏電・火災のおそれあり。



指示を
実行

D種接地（アース）工事は第一種電気工事士の資格のある電気工事業者が行うこと。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。

- ◆ 感電・ノイズによる誤動作・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。



アース
接続

雨天の場合、サービスはしないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ
禁止

お願い

- 適用機種への接続以外の用途には使用しないでください。
- 電気品箱は、サービス時に取り外すことがありますので、配線は取り外すための余裕を設けてください。
- アクティブフィルタ取付後、室外ユニットを移送することは避けてください。
- 素手で電気部品、基板を触らないでください。静電気で破損するおそれがあります。

4-1. 準備

取付作業を行う前に以下の工具を準備してください。

- ・ ドライバ(+)

4-2. ねじ締め時のお願い事項

[1] ねじ締めトルクについて

ねじサイズ	ねじ締め付けトルク
M10 ねじ	10 ~ 15N・m
M8 ねじ	6 ~ 15N・m
M6 ねじ	2.5 ~ 2.9N・m

また、以下の方法でもねじが締まっていることを確認してください。

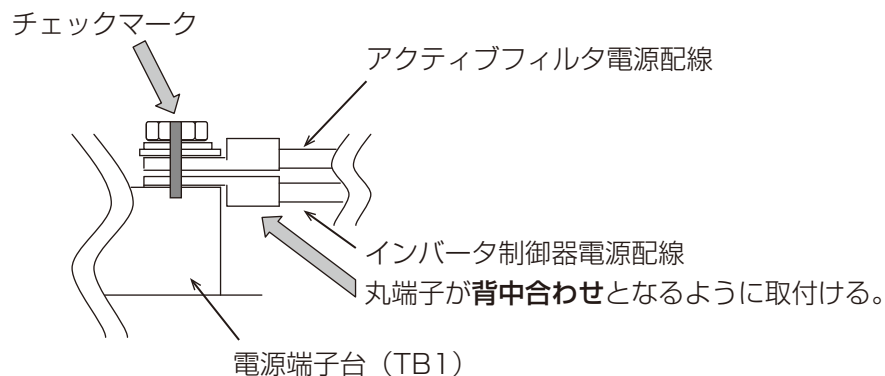
- ・ スプリングワッシャーが平行状態になっていることを確認する。
※ねじが咬み込んだ場合は、規定トルクでねじ締めをただけでは正常判断できません。



- ・ 配線がねじ端子部で動かないことを確認する。

[2] その他

- ・ 斜め締めによりねじ山をつぶさないでください。
※斜め締め防止のため、丸端子が背中合わせとなるように取付けてください。
- ・ ねじ締め後に油性マジックでねじ頭、ワッシャー、端子にチェックマークを入れてください。



ねじの緩みがないよう上記ネジ締め確認を実施してください。

以下はねじ締め確認を実施したことを確認する方法の一例です。

例)

アクティブフィルタねじ締め確認実施済	
実施日	〇〇/〇/〇
実施社	〇〇〇〇〇〇

←ユニット内(制御箱前パネル、アクティブフィルタ前パネルなど)に表示

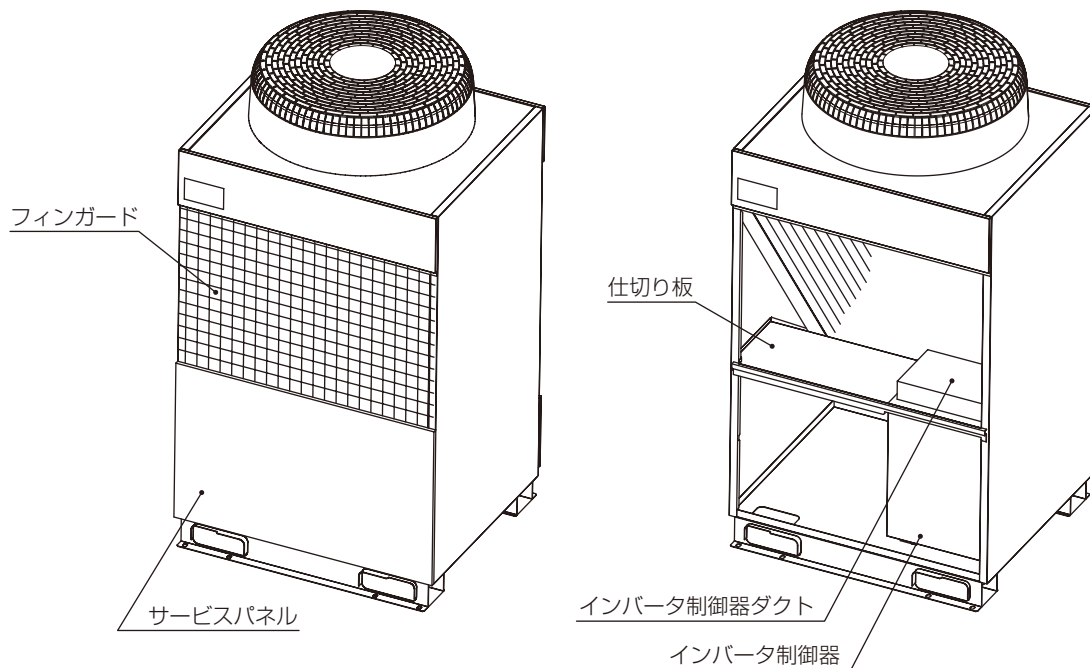
4-3. 取付け・配線方法

取付場所に取り付けられる状態になりましたら、取付作業を行ってください。

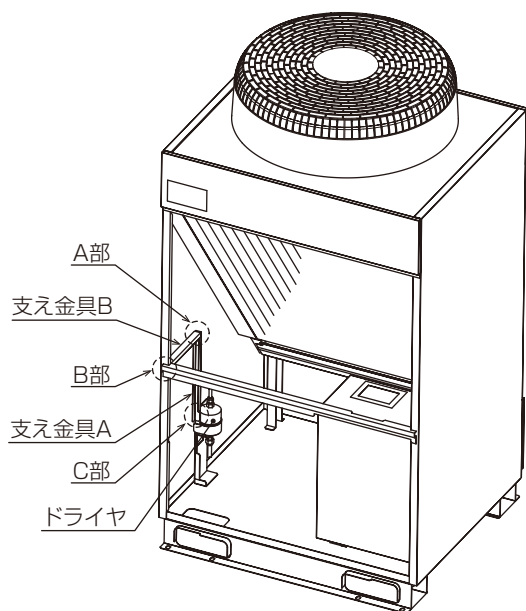
[1] フィンガード、サービスパネル、インバータ制御器ダクト、仕切り板を外す

お願い

- P500～730M形、P450～730KM形、P450～730SM形の機種の場合は、ユニット左側のフィンガード、サービスパネル、インバータ制御器ダクト、仕切り板を外してください。

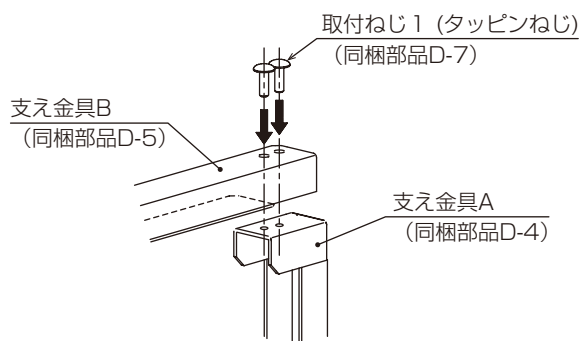


[2] 支え金具A、B (同梱部品D-4、D-5) を取り付ける



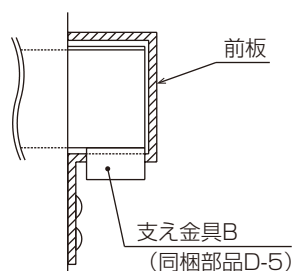
※A部詳細

支え金具A、B (同梱部品D-4、D-5) は
取付ねじ1 (タッピンねじ) 2本で固定する。

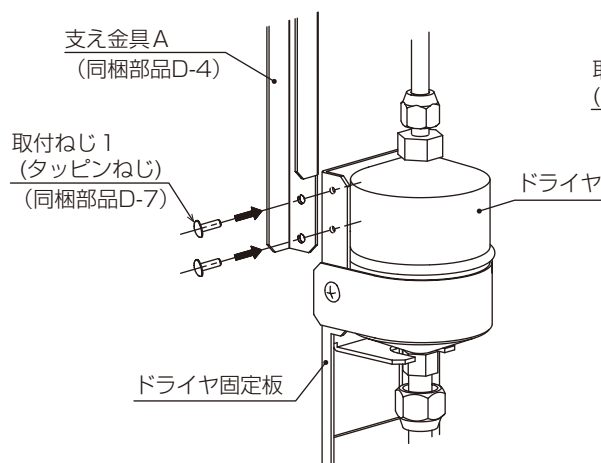


※B部詳細

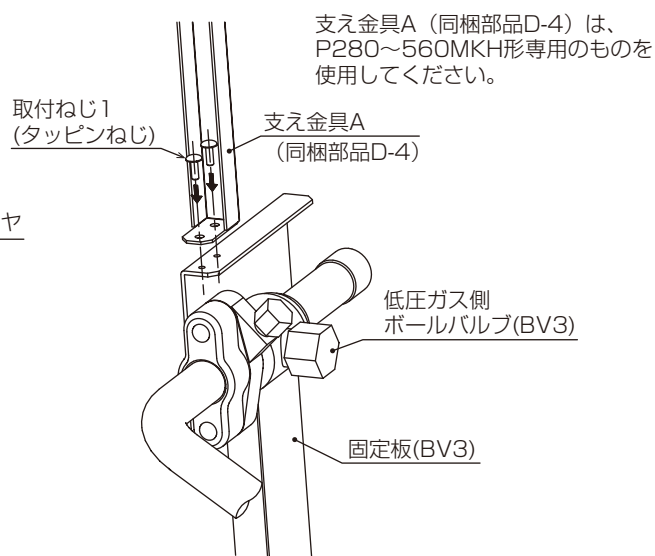
支え金具B (同梱部品D-5) の鍵状の先端部は
前板正面左の空洞部に掛けた状態で固定する。



※C部詳細 (P280~560MKH形以外の場合)



※C部詳細 (P280~560MKH形の場合)



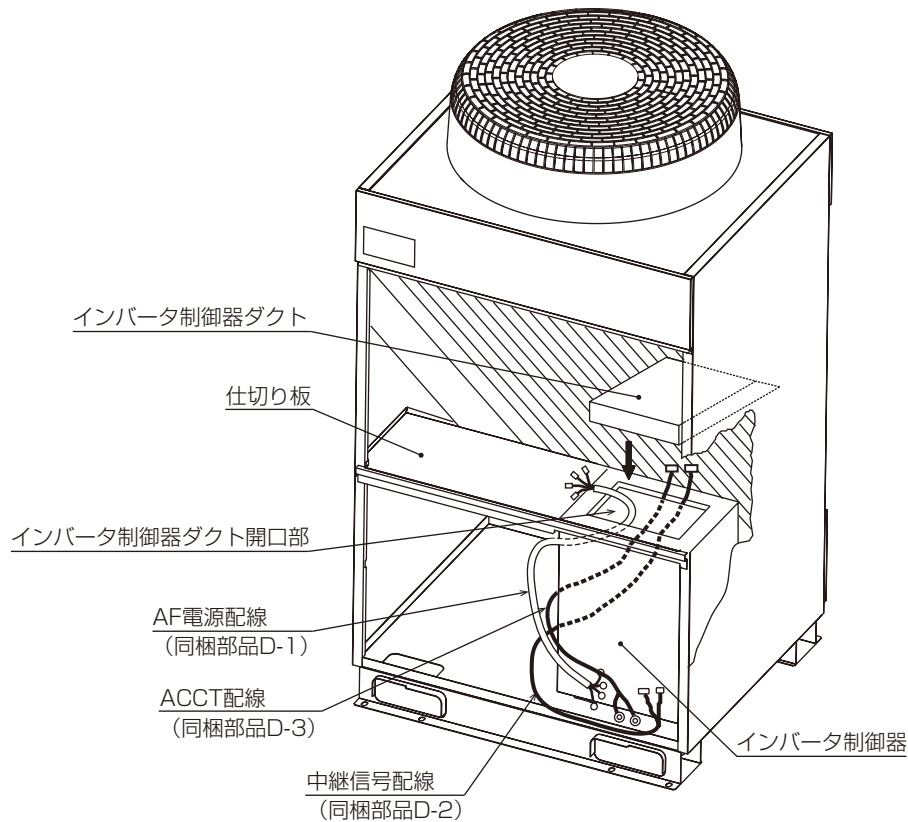
[3] 信号線の引き回しを行い、仕切り板、インバータ制御器ダクトを元通り取り付け

手順

1. ACCT 配線 (同梱部品 D-3) をインバータ制御器正面左側から裏側を通して、ダクト開口部右奥となる位置より引き出す。
2. AF 電源配線 (同梱部品 D-1) をインバータ制御器正面左側から裏側を通して、ダクト開口部左奥となる位置より引き出す。
3. 中継信号配線 (同梱部品 D-2) をインバータ制御器左側から裏側を通して、右奥となる位置よりダクト開口部に引き出す。
 - ・ダクト開口部側が 6 P コネクタとなるようにしてください。
4. 仕切り板を元の位置に取り付ける。
 - ・この際、引き出した配線を損傷しないようにしてください。
5. 各配線の引き出し位置を確認したあと、インバータ制御器ダクトを元の位置に取り付ける。
 - ・配線の挟み込みがないようにしてください。

お願い

- ・ AF 電源配線は、機種により取り付ける配線が異なりますので、適用室外ユニットを確認のうえ取り付けてください。



[4] ACCT配線(同梱部品D-3)、AF電源配線(同梱部品D-1)、中継信号配線(同梱部品D-2)を接続する

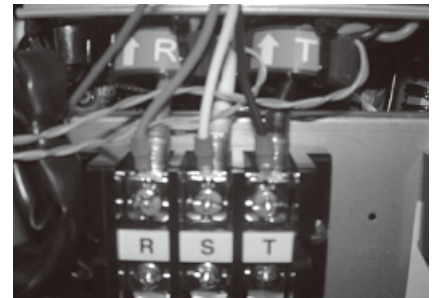
手順

1. インバータ制御器前パネルを開ける。
2. 右図のパターン1またはパターン2に示す写真のとおり(機種により異なる)、ACCT配線(同梱部品D-3)を取り付ける。
 - ・電源端子台と相を一致させてください。
 - ・方向を矢印↑向きとなるようにしてください。
 - ・右方向に出ている最も太い配線に貫通させて取り付けてください。

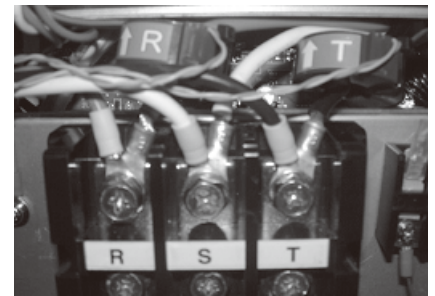
※ 電気配線図も参考にすること。

3. ACCT配線(同梱部品D-3)をワイヤストラップ(同梱部品D-9)で電源端子台TB1上部の配線に固定する。

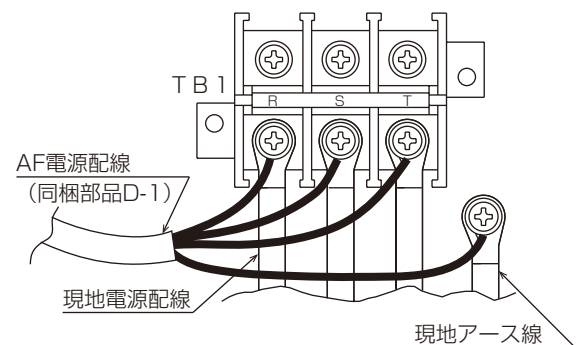
パターン1



パターン2



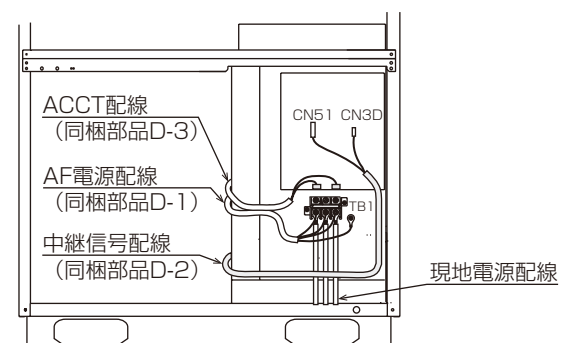
4. AF電源配線(同梱部品D-1)は右図のとおり、現地電源配線と共締めする。
5. AF電源配線内のアース線(緑)を端子台TB1右側のアース端子に現地アース線と共締めする。



6. 中継信号配線(同梱部品D-2)を制御基板のコンネクタ(CN3D(CN3S)、CN51)に接続する。(「4-3-1. コネクタ接続について」22ページ参照)
7. インバータ制御器内制御基板のSW3-8をONする。(「4-3-2. 設定について」22ページ参照)
8. 右図のとおり各配線を引き回し、適宜ワイヤストラップで固定する。

お願い

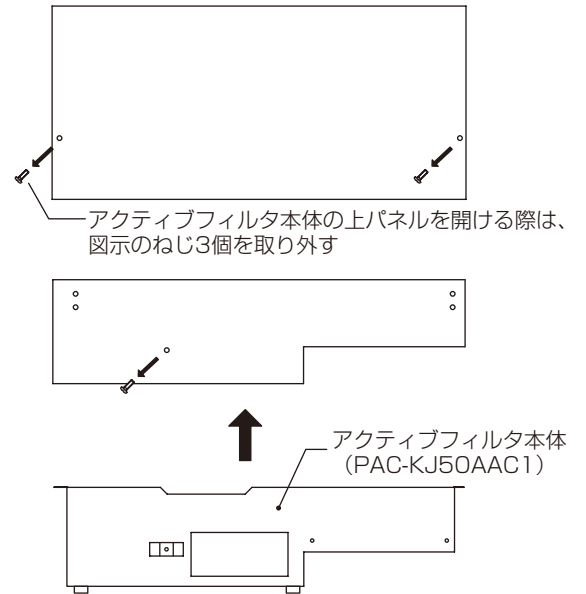
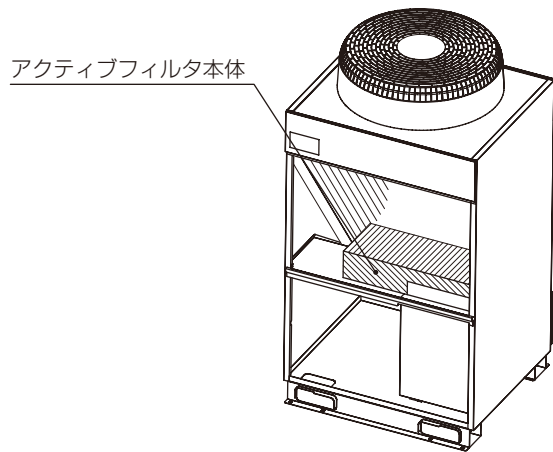
- ・電源の相を合わせてください。
 - ・電源配線をセンサ配線から離して引き回してください。
 - ・ACCT配線(同梱部品D-3)に張力がかからないようにしてください。
 - ・高温となる部分と接触しないように引き回してください。
9. 再度、ACCT(同梱部品D-3)の取付相・方向およびAF電源配線(同梱部品D-1)の取付相に間違いがないことを確認する。
 10. インバータ制御器前パネルを取り付ける。
 - ・配線の挟み込みがないようにしてください。



[5] アクティブフィルタ本体 (PAC-KJ50AAC1) を仕切り板上の図の位置に仮置きする

手順

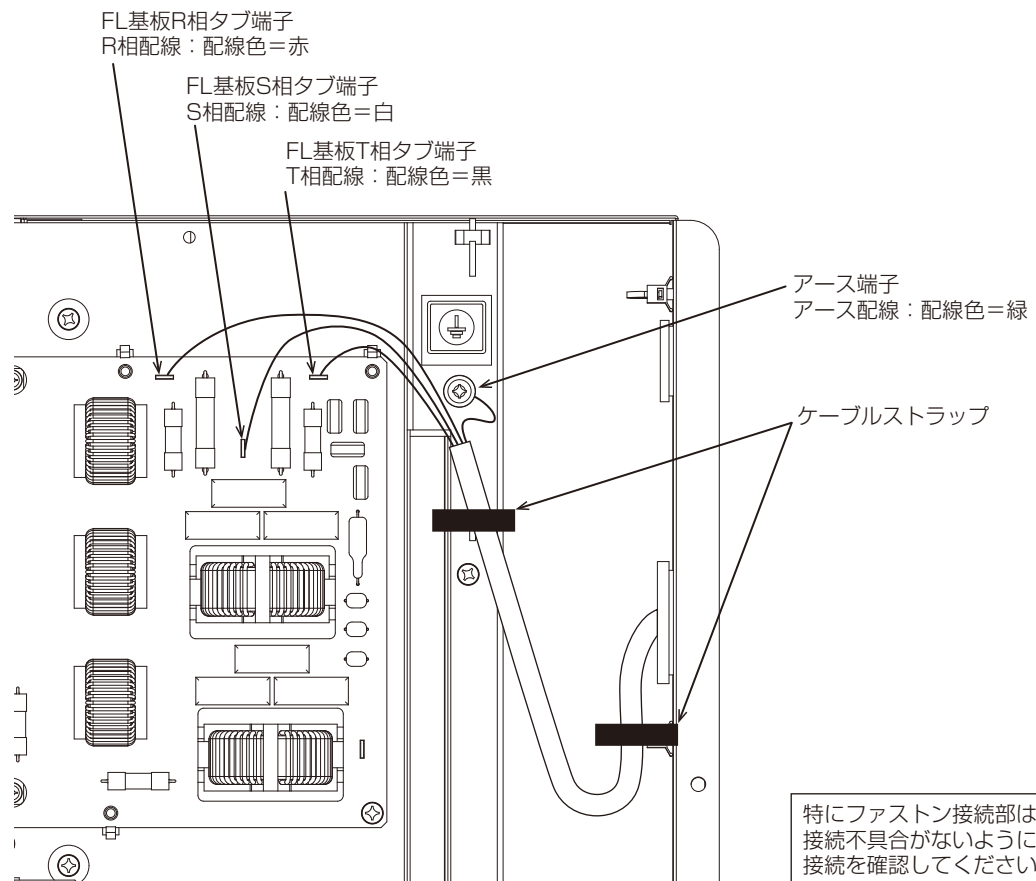
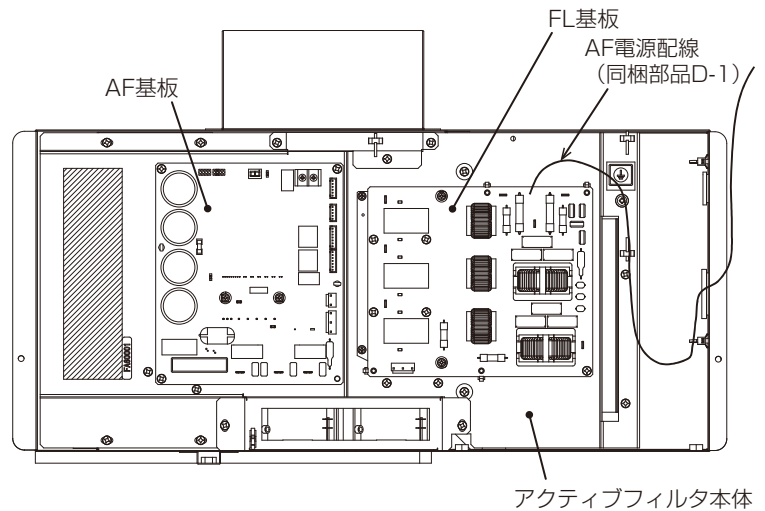
1. あらかじめアクティブフィルタ本体の上パネルを開けておく。
2. アクティブフィルタ本体を下図の位置に仮置きする。
 - この際、アクティブフィルタの落下などないようにしてください。



[6] アクティブフィルタ本体にAF電源配線(同梱部品D-1)を接続する

手順

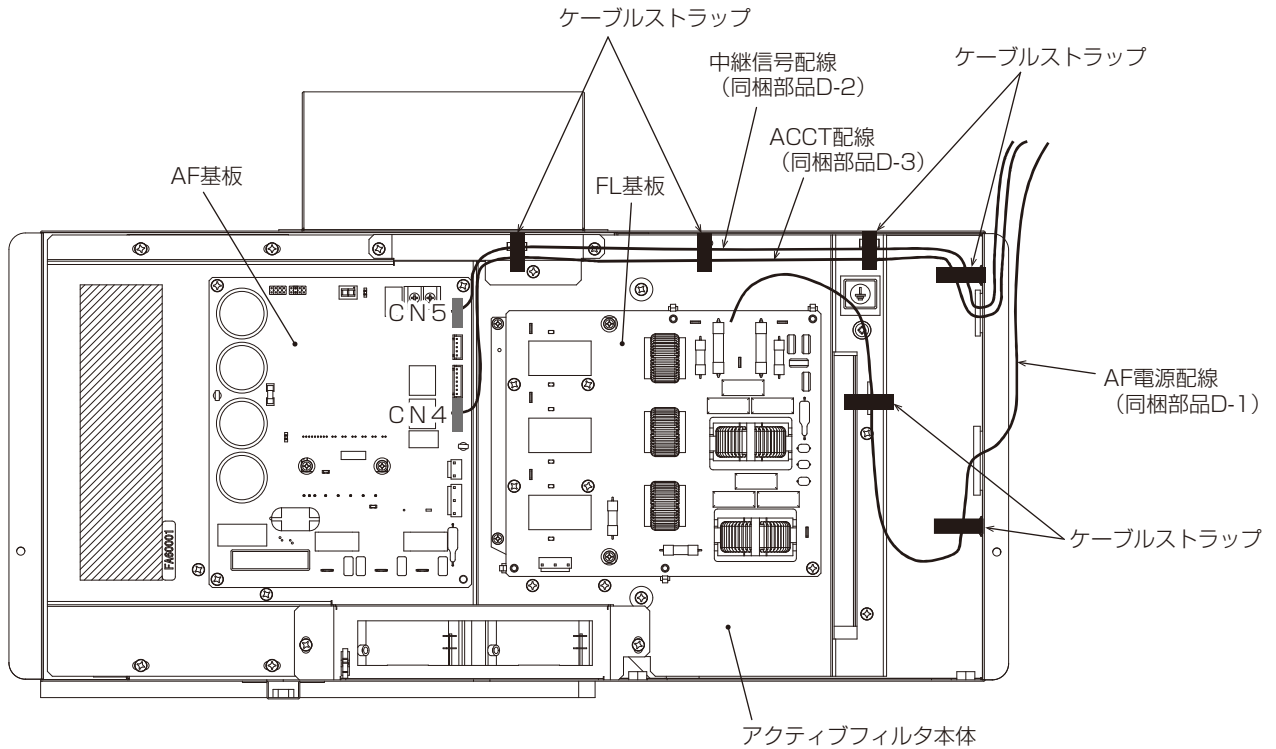
1. AF電源配線(同梱部品D-1)を、アクティブフィルタ本体右側面穴からアクティブフィルタ本体内部に通し、FL基板上のタブ端子に接続する。
 - ・アース配線(緑)は所定のアース端子に接続してください。
 - ・AF電源配線(同梱部品D-1)の相は下図のとおり接続してください。
2. 配線接続後、既設のケーブルストラップでAF電源配線の黒チューブ部を固定する。
3. AF電源配線(同梱部品D-1)が熱交換器に当たらないよう余剰分を機械室内へ引き込む。
 - ・引き込む際は配線を損傷しないようにしてください。



[7] アクティブフィルタ本体に中継信号配線(同梱部品D-2)、ACCT配線(同梱部品D-3)を接続する

手順

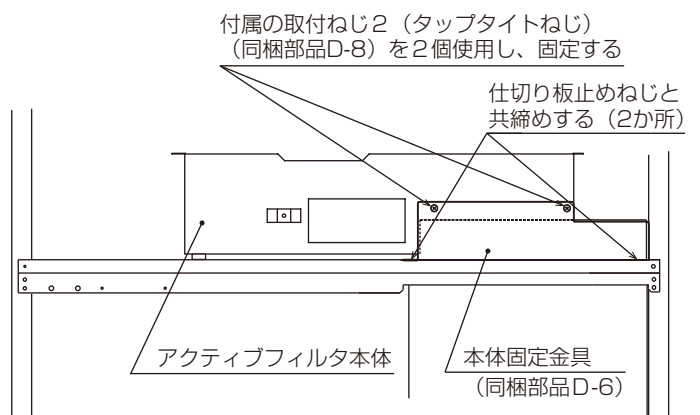
1. ACCT配線(同梱部品D-3)を下図のとおり本体内に引き込み、AF基板のCN4に接続する。
2. 中継信号配線(同梱部品D-2)を下図のとおり本体内に引き込み、AF基板のCN5に接続する。
3. 中継信号配線(同梱部品D-2)、ACCT配線(同梱部品D-3)はAF基板に接続後、アクティブフィルタ本体内のケーブルストラップで固定する。
 - ・配線は部品端面に接触させたり、挟み込んだりしないでください。



[8] アクティブフィルタ本体 (PAC-KJ50AAC1) を室外ユニットに固定する

手順

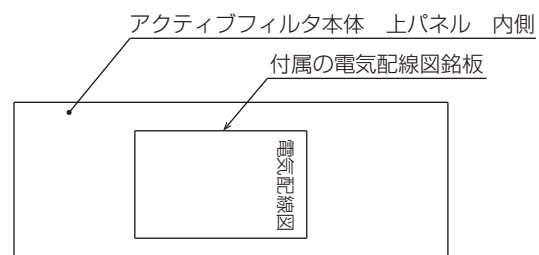
1. 右図のとおり仕切り板を固定していたねじを使用し、本体固定用金具(同梱部品D-6)を仕切り板と共締めする。
2. アクティブフィルタ本体の位置を調整し、右図のとおり取付ねじ2(タップタイトねじ)(同梱部品D-8)で本体固定金具(同梱部品D-6)に固定する。



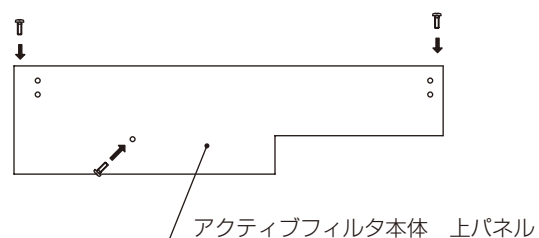
[9] 電気配線図銘板を貼り付け、各パネルを閉め、作業を完了する

手順

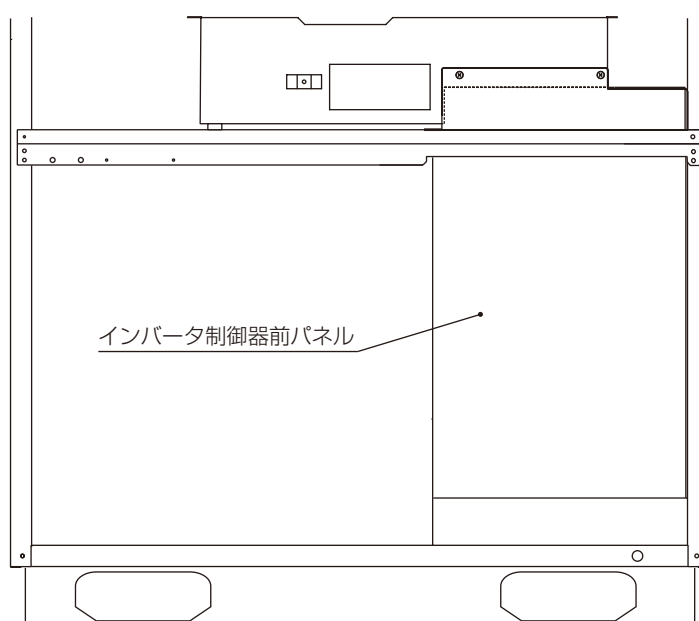
1. アクティブフィルタの上パネル内側に付属の電気配線図銘板を貼り付ける。



2. アクティブフィルタの上パネルを取り付ける。



3. 室外ユニットのサービスパネル、フィンガードを取り付け、作業を終了する。



4-3-1. コネクタ接続について

中継信号配線の室外ユニット制御基板側の3極コネクタ配線は、スノーセンサ/ナイト/デマンドの3種類の入力信号の内の1つを選択することができます。

どの信号部をアクティブフィルタ用として使用するかにより、下表のように接続を変更してください。

なお、**アクティブフィルタ制御用に使用した入力信号部の機能は使用できなくなります**が、残りの機能は従来どおり使用可能です。

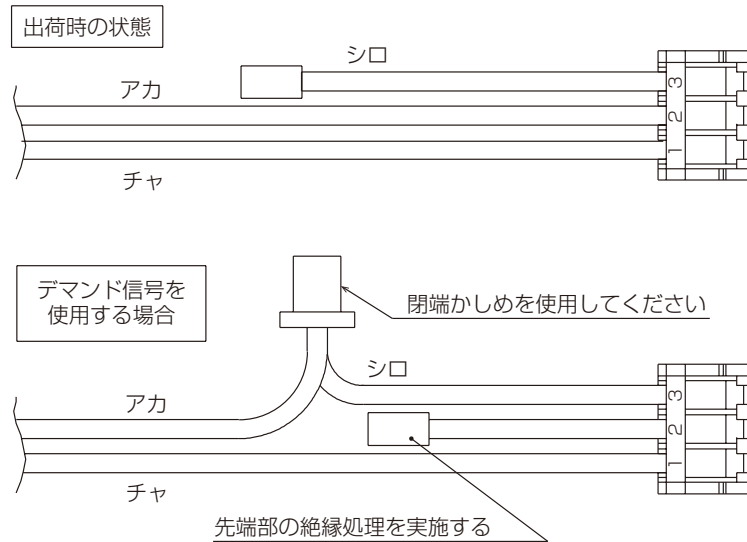
使用入力信号	コネクタ位置	使用ピン位置	ピン位置変更
スノーセンサ	CN3S	1-2ピン	なし
ナイトモード	CN3D	1-2ピン	なし
デマンド	CN3D	1-3ピン	2ピン→3ピン

デマンド入力信号を使用する際には、ピン位置の変更が必要です。ピン位置の変更は、配線のつなぎ換えで実施してください(下図参照)。

その際、配線の接続部および先端部の絶縁(テーピング)処理を実施してください。

また、CN51部の外部出力信号(圧縮機ON/OFF出力および異常出力)を従来の用途で使用する場合には、AF基板上的CN51が渡り配線構成となっています。室外ユニット制御基板上的CN51の代わりにAF基板上的CN51を使用してください。

[1] デマンド入力信号使用時：中継信号配線3極コネクタ配線つなぎ換え要領



4-3-2. 設定について

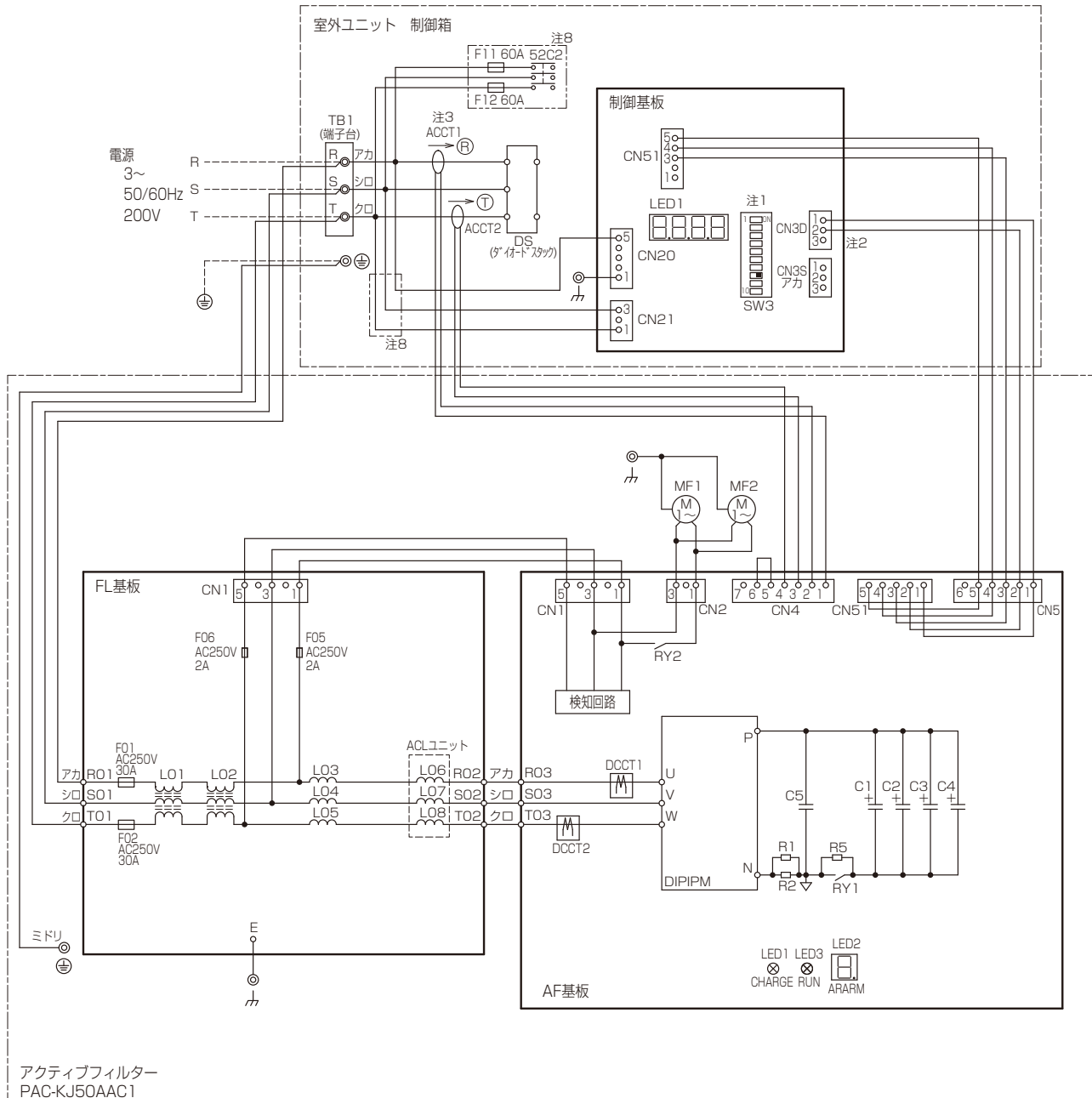
室外ユニットにおける設定は、下表に従ってください。

	SW3-8	CN51	CN3D(CN3S)
各部設定	ON	接続	接続

このように設定することにより、室外ユニットからの圧縮機ON/OFF信号に応じてアクティブフィルタをON/OFF制御するとともに、アクティブフィルタの検知する異常をリモコン表示できるようになります。

4-3-3. 電気配線図

PAC-KJ50AAC1+PAC-KJ56FAC1 電気配線図



アクティブフィルター
PAC-KJ50AAC1

- 注1. 室外ユニット制御箱 制御基板のスイッチ(SW3-8)をONに設定してください。
- 注2. 連係信号として、スノーセンサー/ナイト/デマンドを選択してください。
(デマンド信号を選択する場合は、3Pコネクターの2P線を3Pに変更してください。)
- 注3. ACCT (電流センサー) の相、挿入向きは図示の通りです。TB1とDS間に取り付けてください。
- 注4. 破線は現地配線を示します。
- 注5. 一点鎖線は制御箱境界を示します。
- 注6. 製品内には多数の高電圧充電部がありますので、製品内の点検は必ず電源を切り、10分以上放置後、IPMのP,N端子部の電圧が十分に下がっていること (DC20V以下) を確認してから行ってください。
- 注7. 製品内には多数の高電圧部がありますので、電源遮断後も十分注意してください。
- 注8. 機種により存在しない、または接続位置が異なる場合があります。

AF基板上 LED表示(LED2)と内容

LED表示	内容
0	ACCTコネクター(AF基板-CN4)抜け
1	電源過電圧
2	電源不足電圧
3	直流母線過電圧(S/W検出)
4	直流母線過電圧(H/W検出)
5	直流母線不足電圧
7	IPMエラー(過電流,制御電源異常)
8	欠相/逆相
9	ACCT誤配線
A	瞬時停電
C	過電流
F	周波数(同期)異常
H	IPMエラー(過熱)
P	パワーリレー接続異常

記号	名称
ACCT1	R相負荷電流センサー
ACCT2	T相負荷電流センサー
DCCT1	U相電流センサー
DCCT2	W相電流センサー
MF1,2	送風機用電動機(放熱板)
⊕	アース端子

5. 取付作業後の確認

取付作業が完了しましたら、下表に従ってもう一度点検してください。
不具合がありましたら必ず直してください。(機能が発揮できないばかりか、安全性が確保できません。)

5-1. 取付作業のチェックリスト

分類	内容	チェック欄
取付け	作業したねじなどの緩みはありませんか	
電気工事	配線接続の緩み、極性間違いなどはありませんか	
	電源接続の各相の相順は確認しましたか	
	電源配線が高温部に触れていませんか	
	アースは規定どおり正しく配線されていますか	
その他	「安全のために必ず守ること」を確認しましたか	

6. 試運転

試運転の手順は、アクティブフィルタ本体 (PAC-KJ50AAC1) の「取扱説明書」を参照してください。
お客様立ち会いで試運転を行ってください。

7. お客様への説明

- この取付説明書に従って、正しい使い方をご説明ください。とくに「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。
- お使いになる方が不在の場合は、オーナー様・ゼネコン関係者様や建物の管理人様にご説明ください。
- この取付説明書は、取付け後お客様にお渡しください。
- お使いになる方が代わる場合は、この取付説明書（および保証書）を新しくお使いになる方にお渡しください。

MEMO

ご不明な点がございましたら下記のお客様相談窓口にお問い合わせください。

三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)

0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)

三菱電機株式会社

本社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)
冷熱システム製作所 〒640-8686 和歌山市手平6-5-66

2019年4月作成

WT09367X01